

令和7年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析	
国語	「文章を書くこと」に関して、どの学年もほぼ平均値を下回っている。文章を書く前段階の支援が必要である。文型を示して書く練習も取り入れていき、国語全体に対する興味・関心を高め、読書量を増やしたり言葉の意味調べや短文づくりなどに取り組ませたりすることを通して、語彙力を増やす工夫をしていく必要がある。
社会	各学年により、理解度が大きく異なり、ある学年は目標値・全国平均とほぼ同じ理解度だったが、ある学年は目標・全国平均より全てが10～15ポイント程度低く、特に社会科の見方考え方が身につけていないことが分かった。伝統や文化・先人の働きは正答率が3割を切り、児童の確かな理解のための授業の改善が求められる。
算数	学年差はあるが、知識・技能、思考判断が目標値より数ポイント上回る学年もあったが15ポイント以上下回る学年もあり、算数に対する苦手意識がある児童が多いと考えられる。計算の問題の目標値を下回る学年も多く、基礎的、基本的な計算力を定着させるために計算の練習問題などに取り組んでいく。
理科	各学年による差が多くあった。生活経験が少なくなっている児童を取り巻く状況の変化に注視しながら、目的意識をもって実験・観察を行い、応用的な内容や活用する学習につなげていくことが課題であるといえる。ねらいを明確にしながら実験・観察を行うことで、正しい考察・結論につなげ、基礎学力の定着を目指した授業展開の工夫が必要であると考えられる。
外国語	単語の読みは区の平均を大きく上回り、アルファベットや単語の読みなどの基礎的な学習は定着していることがわかる。一方で、英文の完成や英作文の項目で区の平均を下回っている。単語の羅列ではなく、語順を理解しながら文章を使って外国語でコミュニケーションをとることが次の課題である。

本校の教育目標
○思いやりのある子 ○深く考える子 ○たくましい子

本校が児童に育成したい力
・興味をもって学習に取り組む力。 ・自分の学びやすい学び方を適切に選んで学ぶ力。 ・自分の考えをもち、表現できる力。また、その考えを伝え合い、多様性を認め合い、自己の考えを広げたり深めたりする力。

学力向上にかかわる経営方針
・基礎・基本を身に付けるために、基礎・基本定着度調査を活用する。また、習熟度別学習の充実を図る。 ・学習習慣と学習意欲を重視し、小中の連携をさらに進める。 ・朝読書を定着させるとともに、公立図書館との連携を推進し、読書時間の増加を図る。 ・自ら学び、自ら考える教育の推進を図るため、UDL を基調とした授業改善とICTを活用を充実させる。 ・保護者会での家庭教育啓発を進める。 ・児童館等との連携学習等、地域材を活用した学習を推進する。

校内における学力向上推進体制
研究推進委員会：学級において支持的風土を養うことで心理的安全性を確保するとともに、各教科・領域の見方、考え方を生かした授業を行うことで、認知能力、非認知能力の双方を育てる。

本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
・体験的・問題解決的な学習を重視する。 ・個に応じた習熟度別・課題別学習指導を通して、基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせる。また、主体的な学習態度を身に付けさせるために、自分自身に合った効果的な学び方を選べるようにするとともに選ぶ基準等を併せて指導する。 ・1～4年生の朝学習を「読書」とし、語彙を増やしたり正しく読んだりする力、併せて集中して取り組む力や粘り強く取り組む力を高める。 ・語彙をより正しく理解したり、順序立てて分かりやすく説明したりすることができるよう、協働的な学習（話し合いや教え合い等）を積極的に取り入れる。	・より主体的かつ意欲的に取り組むことができるよう、教科等横断的な視点をもって合科的な単元展開を計画し、より相手意識を明確にしたり活動をダイナミックにする。 ・基礎基本定着度調査の結果から、各学年の指導の重点を明確にすることで指導内容に軽重をつけ、より効果的かつ効率的に学習内容を定着させるとともに、指導の充実を図る。 ・各教科における言語活動を、より対話的・協働的にする工夫を講じることで充実を図る。	・研究テーマを「未来を創る子供たちを育てる指導の工夫～主体的な追究活動を通して～」とし、社会科の授業研究を通して、教科の見方・考え方を生かした授業づくりができるようにしていく。 ・児童にとって個別最適化を図るための指導の工夫をすること、教科及び授業のねらいを明確化すること、ICTを活用することなどを通して「楽しくわかる授業」を目指す。	・評価項目と規準を明確にし、「めあて」という形で児童と共有する。 ・学習の中で、児童自身による自己評価ができる素地を培うとともに、達成感が得られるようにする。 ・友達と考えを交流したり、作品を見合ったりする活動を通して、相互評価の経験を繰り返し、基準や視点を身に付けさせる。	・日常的に学習の様子を発信する。その際、活動のねらいや家庭でフォローしてもらうポイント、評価の規準なども併せて伝える。 ・家庭学習を充実させ、学習習慣の定着を図るために、協力の仕方を具体的に示しながら、各家庭に協力を依頼する。 ・体験的な学習を充実させるため、地域の人材を活用する。